

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1470300441
法人名	医療法人社団仁徳会
事業所名	グループホームフィニックス
訪問調査日	平成22年12月24日
評価確定日	平成23年1月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470300441	事業の開始年月日	平成10年2月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	医療法人社団仁徳会			
事業所名	グループホームフィニックス			
所在地	(220-0062)			
	横浜市西区東久保町35-20			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	20名	
自己評価作成日	平成22年12月4日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月15日	
			ユニット数	3ユニット

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年12月24日	評価機関 評価決定日	平成23年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームの特徴</p> <p>①このホームの経営母体は生駒医院を母体とする医療法人社団 仁徳会である。仁徳会は平成10年2月にデイサービス開設にあたり、横浜市の委託を受けて1ユニット8名、4対1対応でグループホームを併設開所した。平成16年2ユニット(各定員6名)を増設して3ユニットとし現在に至っている。デイサービスは現在1Fで25名定員の小規模デイサービスを、2Fで10名定員の認知症デイサービスを南区の井土ヶ谷に五常デイサービスを展開している。地理的には相鉄線西横浜から徒歩10分程度の高台にあり、比較的古くから開けた、下町的暖かさがある住宅地にある。このホームの特長はなんと云っても生駒医院50年の実績であり、医療との連携による安心感である。生駒医院は地域医療として親しまれ根付いていて、グループホームの入居者は生駒医院のおじいちゃん、おばあちゃんと呼ばれているほどである。理念は住み慣れた町で幸せに生きることを基本とし、理念にある「ゆとり」「ゆったり」「悠々」を3つのユニット名とし、いつも理念と一緒に生活している。建物の周辺や屋上でプランターで野菜を作り、近所の商店を活用した独自のメニューで食事の提供を行っている。</p> <p>②生駒医院との繋がりと、下町的な地域特性から、ご近所からの入居が多く、盆おどりなども地域の1員として違和感無く参加し、入居者の紹介で、更に地域の方が入居する、入居者を通じてホームでの満足感が地域に伝わると云う、良い循環が生まれている。地域の方同士のため家族同士も仲が良く、年1回の家族会、日帰り温泉旅行、MM21の花火、お墓参り、外食、ジャズ祭など家族と一緒に楽しむイベントが定着している。横浜市の委託事業をグループホーム協議会が受けて、各グループホームの発表会を行っている。学校との関係では幼稚園・保育園児の訪問、中学生の体験学習の受入等を行っている。隣のデイ(民謡、フラダンス、歌謡ショー等)、南区の五常デイ(マリオネット等)を見に行き一緒に楽しんでいる。町内の盆おどりには座席を用意して招待して頂き、アニマルセラピー犬がホームまで来てくれたりと、地域のお世話を頂き楽しく過している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームフィニックス
ユニット名	悠々

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。スタッフミーティング等で話している。ホーム設立時に職員が作ったユニット名になっている。「悠々」「ゆとり」「ゆったり」を基本とし誰もが分かりやすく原点に戻れるユニット名としている。	理念はホーム設立時に職員が作り、ユニット名の「悠々」「ゆとり」「ゆったり」とし、誰もが分かりやすく原点に戻れるようにしている。各ユニット、職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。。日々の業務の中で、スタッフ同士が理念を常に確認し合えるホームにしていきたいと考え、ミーティング、責任者会議等で毎回管理者が言葉にしていく様に心掛けている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地域の商店で買い物をしたり選挙や祭り、盆踊り等にも参加している。ホーム内の敷地をゴミ置き場として提供したり、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をさせていただいた。	自治会に参加している。地域の商店で買い物をしたり、地域のお祭りにはホーム前でみこしを担いでくれたり、盆踊りも参加、お茶や椅子を用意し歓迎してくれたりしている。隣家の方にはホームのゴミ置き場を利用して頂く等、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をしている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は市からの委託で介護教室等を開催していた。現在は地域運営推進会議、自治会の役員会及び交流会等を通して発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、家族、入居者の参加を頂き、西区高齢支援、包括を交え積極的な意見の交換があった。地域の方の声をミーティング等で話し合いそれを現場につないでいく努力はしている。	運営推進会議のメンバーには町内会長、民生委員、家族、入居者の参加を頂き、西区高齢支援、包括を交え積極的な意見の交換を行なっている。地域の方の声をミーティング等で話し合い、現場につないでいくよう努めている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	西区役所の高齢支援担当、生活保護課には必ず月一回のペースで連絡を入れたり足を足を運ぶようにしている。ここ数年は高齢支援を中心に西区4ホームを交え情報交換の場を設けている。	西区役所の高齢支援担当や生活保護課には必ず月一回のペースで連絡を入れ、情報交換している。特に生保利用者の相談では連絡を取っている。ここ数年は、区内4つの事業所の管理者と高齢支援課を中心とした情報交換の場をフィニックスで設けている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」は実践しているが、エレベーターの位置は死角に入るため安全のため、エレベーターは暗証番号になっている。	「身体拘束0」は実践しているが、エレベーターは安全のため暗証番号になっている。屋上等自由に出入りしてもらっており閉塞感が無いケアに努めている。言葉の問題については、使った人はもとより、見て見ぬ振りをする人も同罪と話しており、皆で注意して取り組んでいる。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の研修には各ユニットから参加している。月1回のミーティング及び日常的会話に虐待防止の（特に言葉）訴えはしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修回数としては少ないと思う。事業所内研修での試みも考えているが、スタッフがそれほどもまでの興味を示さないのが確か。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計約成立までにはある程度回数を重ねて面談をし説明をし本人、家族に対し理解を得ていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者が発しやすい機会を作る努力をするとともに家族に対し面会時に本人の様子を話すと共にそれとなく家族の意見、要望を伺うようにしている。	常に利用者が意見を言いやすい機会を作る努力をすると共に、家族に対しては面会時に本人の様子を話すと共にそれとなく家族の意見、要望を伺うようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に聞く機会を設けたりしていないが、日常会話の中で聞き取り、反映に繋げている。	特別に聞く機会を設けたりしていないが、日常会話の中で聞き取り、反映に繋げている。個人的な問題があれば面接もするが、日常的には夜勤明けの時に話し会える機会を利用している。キャリアパスについては処遇改善につなげるよう対応している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット共に職員室を設け、休憩時間には完全に入居者と離れられる時間として60分間取っている。夜勤・明け・休みのパターンを極力崩さない努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修、他ホームとの現場研修等参加はしているがまだまだ足りない状況ではある。しかし、今年度は少し参加回数、参加人数が増やすことが出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年各ユニットから一名ずつ他ホームへの三日間の研修又は受け入れ等をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の行動、言動に加え表情、目線、態度に気を配りながら観察を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事をスタッフ間で共有し、観察しながら一つ一つ確認し、その結果を伝えていく事から関係作りを行っている。フェイスシート等を利用し職員も把握できるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に対する支援を中心に始めて行きながら、場所や人が変わる事で変化が生じてくる時は新たな支援に変えていく対応を取っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることは見守り、出来ないことをサポートし、その人らしく生活出来るように心がけている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、面会等を大切にし、本人の状態をご家族に詳しく伝える様に心がけている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が限られて入るが近所の方やお友達が来訪されたり、家族の承諾があれば外出をして楽しまれたりしている。	生駒医院との繋がりと、下町的な地域特性から、ご近所からの入居が多く、盆おどりなども地域の1員として違和感無く参加し、入居者の紹介で、更に地域の方が入居する、入居者を通じてホームでの満足感が地域に伝わると云う、良い循環が生まれている。限られて入るが利用者が知り合いの近所の方やお友達が来訪されたり、家族の承諾があれば外出をしたりしている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話を成立できるように努めたり、話題提供をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方が多いため、特養等へ退去された利用者の家族、亡くなられた家族等が立ち寄り下さったり、相談事で来所されるケースもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のミーティングと毎日のミニミーティングで入居者の日々の変化に応じ、また各々の行動や言動に耳を傾け何を希望し、何を思っているかの把握に努めている。	月1回のミーティングと毎日のミニミーティングで入居者の日々の変化に応じ、また各々の行動や言動に耳を傾け何を希望し、何を思っているかの把握に努めている。思いについては出来ること出来ないことシートを活用し確認している。独居の人についてのアセスメントは入居後も継続して確認を続けている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを参考にしたり、ご家族よりのお話を聞くようにしている。また、日々の会話の中でその人の生活歴を見つけるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の徹底や日々のミニミーティング、スタッフ間で共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミニミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。またご家族にもお話を聞くように努めている。	毎日のミニミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。またご家族にもお話を聞くように努めている。基本として3ヶ月に一回の介護計画の見直し、作成を、また現状の変化あればその都度見直しを実施している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、記録を通して毎日行うミニミーティングでその日の気づきを上げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所のデイサービスとの交流も図り、ボランティア来所時には誘いを受け出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療への受信、自治会への参加、商店街の利用、西区役所、小中学校、幼稚園との関わり等支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択されている。	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択出来るように話しているが、生駒医院の患者さんが多いので生駒医院を主治医とする方が圧倒的に多い。生駒医院が主治医であることは職員の安心感、医療連携の安定感につながっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が併設している医院の院長であり、管理者は看護師であり、併設してあるデイサービスにも常時看護師が常駐している為、支援しやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院及び退院には必ずかかわる様になっている。また病院、家族、公務間でのカンファレンスには必ず出席を心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応に関するホームの指針を書面にしてお客様に署名していただいている。入居時に必ず重度化や終末期におけるお客様の考えをお聞きしている。	重度化への対応に関するホームの指針を書面にしてお客様に署名して頂いている。入居時には理事長（医師）を交えて、必ず重度化や終末期におけるお客様の考えをお伺いしている。終末期に近いなら医師を交えて方向性を決めている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを手引きとして備えてはいる。特に夜間緊急時には直ぐ対応できるよう努力はしている。全スタッフが実践力を身につけているかと言うと難しい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成13年より年二回の昼間の避難訓練は実施している。今回夜間の想定避難訓練の実施を行った。地域住民15名の協力を得られた。災害時、利用者の避難場所として町内会館を開放していただける自治会長より申し出があった。	平成13年より年二回の昼間の避難訓練は実施している。今回、夜間の想定避難訓練の実施を行い、地域住民15名の協力を得られた。災害時、ホーム利用者の避難場所として、町内会館を開放して頂ける旨を自治会長より申し出を頂き、地域の協力体制を頂き有難く思っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは気を付けているが、行動については時々利便性を先行してしまう事がある。(トイレ対応時等) スタッフの声の大きさが気になる事もある。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて、職員は、言葉かけは気を付け互いに注意し合い、より良いケアの体制に努めている。スタッフの声の大きさについても気をつけるよう配慮している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶(コーヒー、紅茶、昆布茶)を選んでもらったりと、特別なことではなく日々の生活の中で自己決定の場面を心がけたり本人の思い、希望を大切にしていきたいように努めている。しかし、スタッフによっては自分の意見が前に出ている場面も見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大切にしつつ、本人のペースを守るように努めている。個々の希望が全て叶えられるかという難しいが極力希望に添えるように努力してはいる。しかし、場面によってスタッフの都合優先と見受けられるときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせたもの(口紅、マニキュア、化粧品、洋服)を使用し本人の思いを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、食事を楽しんでもらうことを心がけている。一緒に準備、片付けをすることを大切にしている。	1Fの職員がメニュー作りが得意で、利用者の要望を入れながら全体の分を作成し、3ユニットで共用している。地元のスーパー、酒屋への買い物、電話による注文・配達で食品を献立に沿って調達している。まず、ご利用者に食事を楽しんでもらうことを心がけ、一緒に準備、片付けをすることを大切にしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が決められている利用者には毎日摂取量を記録し支援している。西区管理栄養士に年一回献立を見てもらい指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕、各々の状態に応じた支援を行っている。義歯の方は夜間、洗浄剤等を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用しスタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。	必要な人には排泄表を使用して、スタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。基本的にはご利用者のサインを見逃さず支援するよう努めている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足の運動等、適度な運動を促している。食べ物（食物繊維等）の工夫等。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎回入浴する方や体調に応じ対応しているが、午後の入浴が中心となる。	毎回入浴する方や個々の体調に応じて、対応している。入浴時間は午後を中心として支援をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の状態を観察しながら支援している。出来る限り日中の覚醒、離床を促し夜間の安眠に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量に関してはユニットの薬を管理するスタッフにより、毎回整理され分かるようになっている。薬の使用目的は把握しているが副作用までの把握というと全スタッフは難しい。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、裁縫、パズル、歌等その方にあった対応を心がけている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	家族との旅行、お墓参り、温泉、近所の喫茶店でコーヒーを飲む等々、楽しめる方もいれば様々な対応を心がけている。	地域の方同士のため家族同士も仲が良く、年1回の家族会、日帰り温泉旅行、MM21の花火、お墓参り、外食、ジャズ祭など家族と一緒に楽しむイベントが定着している。近所の喫茶店でコーヒーを飲む、隣のデイ（民謡、フラダンス、歌謡ショー等）、南区の五常デイ（マリオネット等）を見に行き一緒に楽しむなど様々な対応を心がけている。	今後の継続	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	限られているが自身で管理している人もいますが、大半の方は管理することが難しい為ホーム側で預かり使う際に出し入れして小遣い帳の確認となる。			

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙は自由である。家族や友人に電話を掛けたりスタッフに手伝ってもらいハガキ等を書かれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごされています。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごしている。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。インテリアは季節感を大切にし、お雛様、鯉のぼり、X'masの飾りつけなどの他、金魚やカナリアを飼い、潤いのある生活感あるリビングにするように努めている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その中で少しはなれた場所へイス、ソファ等を置く工夫をしている。また、屋上や外庭のベンチ等を利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人のお気に入りの物、思い出ある物を持って来て頂くよう話をしている。全ての物を新しくしないで欲しい事を伝えている。	入居前に本人のお気に入りの物や思い出ある物を持って来て頂くよう、お伝えし、居室を、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の内部と介助バーの設置により歩行の安全性を確保しているので杖を使用したりゆっくりとご自分のペースの歩行で自らの意思で行動されている。		

事業所名	グループホームフィニックス
ユニット名	ゆとり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各エット、職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。スタッフミーティング等で話している。ホーム設立時に職員が作ったエット名になっている。「悠々」「ゆとり」「ゆったり」を基本とし誰もが分かりやすく原点に戻れるエット名としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地域の商店で買い物をしたり選挙や祭り、盆踊り等にも参加している。ホーム内の敷地をゴミ置き場として提供したり、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をさせていただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は市からの委託で介護教室等を開催していた。現在は地域運営推進会議、自治会の役員会及び交流会等を通して発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、家族、入居者の参加を頂き、西区高齢支援、包括を交え積極的な意見の交換があった。地域の方の声をミーティング等で話し合いそれを現場につないでいく努力はしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	西区役所の高齢支援担当、生活保護課には必ず月一回のペースで連絡を入れたり足を足を運ぶようにしている。ここ数年は高齢支援を中心に西区4ホームを交え情報交換の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」は実践しているが、エレベーターの位置は死角に入るため安全のため、エレベーターは暗証番号になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の研修には各ユニットから参加している。月1回のミーティング及び日常的会話に虐待防止の（特に言葉）訴えはしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修回数としては少ないと思う。事業所内研修での試みも考えているが、スタッフがそれほどまでの興味を示さないのが確か。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計約成立までにはある程度回数を重ねて面談をし説明をし本人、家族に対し理解を得ていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者が発しやすい機会を作る努力をするとともに家族に対し面会時に本人の様子を話すと共にそれとなく家族の意見、要望を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に聞く機会を設けたりしていないが、日常会話の中で聞き取り、繁栄に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット共に職員室を設け、休憩時間には完全に入居者と離れられる時間として60分間取っている。夜勤・明け・休みのパターンを極力崩さない努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修、他ホームとの現場研修等参加はしているがまだまだ足りない状況ではある。しかし、今年度は少し参加回数、参加人数が増やすことが出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年各ユニットから一名ずつ他ホームへの三日間の研修又は受け入れ等をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の行動、言動に加え表情、目線、態度に気を配りながら観察を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事をスタッフ間で共有し、観察しながら一つ一つ確認し、その結果を伝えていく事から関係作りを行っている。フェイスシート等を利用し職員も把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に対する支援を中心に始めて行きながら、場所や人が変わる事で変化が生じてくる時は新たな支援に変えていく対応を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることは見守り、出来ないことをサポートし、その人らしく生活出来るように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、面会等を大切にし、本人の状態をご家族に詳しく伝える様に心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が限られて入るが近所の方やお友達が来訪されたり、家族の承諾があれば外出をして楽しまれたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話を成立できるように努めたり、話題提供をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方が多いため、特養等へ退去された利用者の家族、亡くなられた家族等が立ち寄り下さったり、相談事で来所されるケースもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のミーティングと毎日のミニミーティングで入居者の日々の変化に応じ、また各々の行動や言動に耳を傾け何を希望し、何を思っているかの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを参考にしたり、ご家族よりのお話を聞くようにしている。また、日々の会話の中でその人の生活歴を見つけるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の徹底や日々のミニミーティング、スタッフ間で共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。またご家族にもお話を聞くように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、記録を通して毎日行うミーティングでその日の気づきを上げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所のデイサービスとの交流も図り、ボランティア来所時には誘いを受け出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療への受信、自治会への参加、商店街の利用、西区役所、小中学校、幼稚園との関わり等支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が併設している医院の院長であり、管理者は看護師であり、併設してあるデイサービスにも常時看護師が常駐している為、支援しやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院及び退院には必ずかかわる様になっている。また病院、家族、公務間でのカンファレンスには必ず出席を心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応に関するホームの指針を書面にしてご家族に署名していただいている。入居時に必ず重度化や終末期におけるご家族の考えをお聞きしてる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを手引きとして備えてはいる。特に夜間緊急時には直ぐ対応できるよう努力はしている。全スタッフが実践力を身につけているかと言うと難しい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成13年より年二回の昼間の避難訓練は実施している。今回夜間の想定避難訓練の実施を行った。地域住民15名の協力を得られた。災害時、利用者の避難場所として町内会館を開放していただける自治会長より申し出があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは気を付けているが、行動については時々利便性を先行してしまう事がある。(トイレ対応時等) スタッフの声の大きさが気になる事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶(コーヒー、紅茶、昆布茶)を選んでも頂いたり、特別なことではなく日々の生活の中で自己決定の場面を心がけたり本人の思い、希望を大切にしていこうと努めている。しかし、スタッフによっては自分の意見が前に出ている場面も見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大切にしつつ、本人のペースを守るように努めている。個々の希望が全て叶えられるかという難しいが極力希望に添えるように努力してはいる。しかし、場面によってスタッフの都合優先と見受けられるときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせたもの(口紅、マニキュア、化粧品、洋服)を使用し本人の思いを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、食事を楽しんでもらうことを心がけている。一緒に準備、片付けをすることを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が決められている利用者には毎日摂取量を記録し支援している。西区管理栄養士に年一回献立を見てもらい指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕、各々の状態に応じた支援を行っている。義歯の方は夜間、洗浄剤等を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用しスタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足の運動等、適度な運動を促している。食べ物（食物繊維等）の工夫等。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎回入浴する方や体調に応じ対応しているが、午後入浴が中心となる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の状態を観察しながら支援している。出来る限り日中の覚醒、離床を促し夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量に関してはユニットの薬を管理するスタッフにより、毎回整理され分かるようになっていく。薬の使用目的は把握しているが副作用までの把握というと全スタッフは難しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、裁縫、パズル、歌等その方にあつた対応を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	家族との旅行、お墓参り、温泉、近所の喫茶店でコーヒーを飲む等々、楽しめる方もいれば様々な対応を心がけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	限られているが自身で管理している人もいるが、大半の方は管理することが難しい為ホーム側で預かり使う際に出し入れして小遣い帳の確認となる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙は自由である。家族や友人に電話を掛けたりスタッフに手伝ってもらいハガキ等を書かれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごされています。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その中で少しはなれた場所へイス、ソファ等を置く工夫をしている。また、屋上や外庭のベンチ等を利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人のお気に入りの物、思い出ある物を持って来て頂くよう話をしている。全ての物を新しくしないで欲しい事を伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の内部と介助バーの設置により歩行の安全性を確保しているので杖を使用したりゆっくりとご自分のペースの歩行で自らの意思で行動されている。		

事業所名	グループホームフィニックス
ユニット名	ゆったり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各エット、職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。スタッフミーティング等で話している。ホーム設立時に職員が作ったエット名になっている。「悠々」「ゆとり」「ゆったり」を基本とし誰もが分かりやすく原点に戻れるエット名としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地域の商店で買い物をしたり選挙や祭り、盆踊り等にも参加している。ホーム内の敷地をゴミ置き場として提供したり、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をさせていただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は市からの委託で介護教室等を開催していた。現在は地域運営推進会議、自治会の役員会及び交流会等を通して発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、家族、入居者の参加を頂き、西区高齢支援、包括を交え積極的な意見の交換があった。地域の方の声をミーティング等で話し合いそれを現場につないでいく努力はしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	西区役所の高齢支援担当、生活保護課には必ず月一回のペースで連絡を入れたり足を足を運ぶようにしている。ここ数年は高齢支援を中心に西区4ホームを交え情報交換の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」は実践しているが、エレベーターの位置は死角に入るため安全のため、エレベーターは暗証番号になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の研修には各ユニットから参加している。月1回のミーティング及び日常的会話に虐待防止の（特に言葉）訴えはしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修回数としては少ないと思う。事業所内研修での試みも考えているが、スタッフがそれほどまでの興味を示さないのが確か。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計約成立までにはある程度回数を重ねて面談をし説明をし本人、家族に対し理解を得ていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者が発しやすい機会を作る努力をするとともに家族に対し面会時に本人の様子を話すと共にそれとなく家族の意見、要望を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に聞く機会を設けたりしていないが、日常会話の中で聞き取り、繁栄に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット共に職員室を設け、休憩時間には完全に入居者と離れられる時間として60分間取っている。夜勤・明け・休みのパターンを極力崩さない努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修、他ホームとの現場研修等参加はしているがまだまだ足りない状況ではある。しかし、今年度は少し参加回数、参加人数が増やすことが出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年各ユニットから一名ずつ他ホームへの三日間の研修又は受け入れ等をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の行動、言動に加え表情、目線、態度に気を配りながら観察を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事をスタッフ間で共有し、観察しながら一つ一つ確認し、その結果を伝えていく事から関係作りを行っている。フェイスシート等を利用し職員も把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に対する支援を中心に始めて行きながら、場所や人が変わる事で変化が生じてくる時は新たな支援に変えていく対応を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることは見守り、出来ないことをサポートし、その人らしく生活出来るように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、面会等を大切にし、本人の状態をご家族に詳しく伝える様に心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が限られて入るが近所の方やお友達が来訪されたり、家族の承諾があれば外出をして楽しまれたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話を成立できるように努めたり、話題提供をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方が多いため、特養等へ退去された利用者の家族、亡くなられた家族等が立ち寄り下さったり、相談事で来所されるケースもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のミーティングと毎日のミニミーティングで入居者の日々の変化に応じ、また各々の行動や言動に耳を傾け何を希望し、何を思っているかの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを参考にしたり、ご家族よりのお話を聞くようにしている。また、日々の会話の中でその人の生活歴を見つけるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の徹底や日々のミニミーティング、スタッフ間で共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。またご家族にもお話を聞くように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、記録を通して毎日行うミーティングでその日の気づきを上げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所のデイサービスとの交流も図り、ボランティア来所時には誘いを受け出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療への受信、自治会への参加、商店街の利用、西区役所、小中学校、幼稚園との関わり等支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が併設している医院の院長であり、管理者は看護師であり、併設してあるデイサービスにも常時看護師が常駐している為、支援しやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院及び退院には必ずかかわる様になっている。また病院、家族、公務間でのカンファレンスには必ず出席を心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応に関するホームの指針を書面にしてご家族に署名していただいている。入居時に必ず重度化や終末期におけるご家族の考えをお聞きしてる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを手引きとして備えてはいる。特に夜間緊急時には直ぐ対応できるよう努力はしている。全スタッフが実践力を身につけているかと言うと難しい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成13年より年二回の昼間の避難訓練は実施している。今回夜間の想定避難訓練の実施を行った。地域住民15名の協力を得られた。災害時、利用者の避難場所として町内会館を開放していただける自治会長より申し出があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは気を付けているが、行動については時々利便性を先行してしまう事がある。(トイレ対応時等) スタッフの声の大きさが気になる事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶(コーヒー、紅茶、昆布茶)を選んでも頂いたり、特別なことではなく日々の生活の中で自己決定の場面を心がけたり本人の思い、希望を大切にしていくように努めている。しかし、スタッフによっては自分の意見が前に出ている場面も見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大切にしつつ、本人のペースを守るように努めている。個々の希望が全て叶えられるかという難しいが極力希望に添えるように努力してはいる。しかし、場面によってスタッフの都合優先と見受けられるときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせたもの(口紅、マニキュア、化粧品、洋服)を使用し本人の思いを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、食事を楽しんでもらうことを心がけている。一緒に準備、片付けをすることを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が決められている利用者には毎日摂取量を記録し支援している。西区管理栄養士に年一回献立を見てもらい指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕、各々の状態に応じた支援を行っている。義歯の方は夜間、洗浄剤等を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用しスタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足の運動等、適度な運動を促している。食べ物（食物繊維等）の工夫等。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎回入浴する方や体調に応じ対応しているが、午後入浴が中心となる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の状態を観察しながら支援している。出来る限り日中の覚醒、離床を促し夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量に関してはユニットの薬を管理するスタッフにより、毎回整理され分かるようになっている。薬の使用目的は把握しているが副作用までの把握というと全スタッフは難しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、裁縫、パズル、歌等その方にあった対応を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との旅行、お墓参り、温泉、近所の喫茶店でコーヒーを飲む等々、楽しめる方もいれば様々な対応を心がけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	限られているが自身で管理している人もいるが、大半の方は管理することが難しい為ホーム側で預かり使う際に出し入れして小遣い帳の確認となる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙は自由である。家族や友人に電話を掛けたりスタッフに手伝ってもらいハガキ等を書かれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごされています。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その中で少しはなれた場所へイス、ソファ等を置く工夫をしている。また、屋上や外庭のベンチ等を利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人のお気に入りの物、思い出ある物を持って来て頂くよう話をしている。全ての物を新しくしないで欲しい事を伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の内部と介助バーの設置により歩行の安全性を確保しているので杖を使用したりゆっくりとご自分のペースの歩行で自らの意思で行動されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームフィニックス

作成日

平成22年12月24日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	現状におけるスタッフの研修が不足している。	事業所外研修及び事業所内研修の充実。	事業所内研修においては、夜間の研修は取り組むのが難しかったので中止とした。研修は日中に戻していく。	一年
2	4	地域運営委員会の充実	概ね、二ヶ月に一度の開催に少しでも近づけるように努力する。	開催日を早めに設定、連絡し予定を立てていく。	一年
3	19	家族ら所持には常に日常の状態は話しているが、記録等を積極的に見せての伝達が少なかったと思う。	来所された家族に口頭だけで伝えるのではなく常時記録等を見て頂き、日ごろの状態を話して行きたい。	個人日誌、生活日誌、個人カンファレンス、ミニミーティングの記録等を見て頂き、それを通して伝えていく。	一年
4	27	スタッフ個々の記録の書き方が様々である。	記録は客観的に、事実のみを記入し反省文や感想文にならないようにする。	記録についての研修に一人でも多くのスタッフを参加させる。	一年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。